

薬学部を対象としたPOE

掛井 秀一

総合科学部・人間社会学科・助教 人間社会文化)

薬学部を対象として、工学部山中教授、滑川講師、薬学部新垣助教、施設部藤村課長と共にPOEを実施したので誌面をお借りして、その結果を報告させていただきます。

POEとは？

POEとは Post Occupancy Evaluationの略で入居後評価と訳されています。施設利用者を対象に調査を行い、施設に対する満足度の傾向や問題点を把握するための手法です。POE実施により、施設が要求されている建物性能に対し、実際に提供された物理環境の効果の検証が可能となります。

POEの実施は、組織の全施設及び環境を経営的視点から総合的に企画・管理・活用する経営管理活動であるFM (Facility Management)の一環であり、施設の現在の課題及び将来起こりうる課題を明確にして、これらを施設の運営管理に反映させることを目的としています。

実施方法及び分析方法

POEアンケートは、Web上で実施し、主に建物の改修前・改修後の満足度を、5段階（一部3段階）で評価してもらいました。また、最後に施設に対する要望・意見の記述をお願いしました。



満足度については同一内容の事柄に対する改修前・後での評価点の平均値が統計的差異を有するか調べ、差異があった項目に対しては職種（教員、4年生、院生修士、院生博士）が改修前・後の平均値に影響す

るか調べました。職種の影響についての検定では有効回答数が少数だったので職員、研究生のデータは省いています。

要望・意見は、その要望・意見の対象によって分類整理しました。

分析結果及び考察

評価点の平均値に統計的差異が認められた51項目中43項目（84%）で改修後の評価が高くなっており、改修後の施設利用者の満足度は改修前に比べて多くの点で向上していると言ったことがわかりました。特に空間がオープンな雰囲気になったことでもたらされる「開放感」、「コミュニケーションの取りやすさ」、「ミ

ーティングのしやすさ」などは評価が大幅に高くなっています。また、自席まわりや研究・執務スペース、講義スペースなど各スペースの清潔感に対する満足度や建物全体の総合評価も大幅に高くなっています。

一方、改修後の評価が改修前よりも否定的な結果となった項目は講義室の座席に関する項目と「気兼ね」や「周囲の騒音」、「会話の漏洩」など本人が望まない他者との干渉に関する項目でした。後者は空間のオープン化によるデメリットと言える

かも知れません。

また、職種により同一項目に対しても評価が大きく異なることがわかりました。傾向としては、博士課程の学生の評価が他の職種の評価と異なるケースが多く見受けられました。

自由記述では、ドラフトによる強制換気が必要とする実験スペースでの空調に対する要望やスペースが不足している自転車置き場に対する要望が多く寄せられていました。

まとめ

ページ数の都合で分析結果を詳細に述べることができませんでしたが、今回のPOEから、薬学部改修の目的であった「学問領域の変化への弾力的対応のための空間のオープン化」について、施設利用者は概ね満足していることが示されました。

しかし、立場により評価が全く異なる項目も存在し、施設に対する満足度を最大にする為に、どのような施設運営方法が適切であるのかについては検討する余地があると言えるでしょう。

最後となりましたが、この調査にご協力いただきました薬学部の教職員並びに学生の方々に御礼申し上げます。